

第3学年音楽科「目指せ！日本一の歌い方 ～『ふじ山』～」

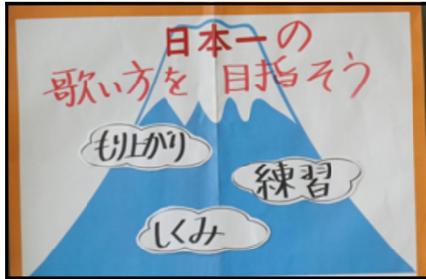
学習指導者 高口 佳子

坂出市音楽会への出演を経験したり、日本一の合唱を聴いたりした子供たちは、「自分たちの歌も曲想に合っていたけど、他の曲でも曲想に合った歌い方を考えて日本一の歌い方をしたい」と意欲を高め、「曲の特徴を捉えて、曲想にぴったり合った日本一の歌い方を目指そう」という題材の目標を設定しました。そのためには、強弱を工夫するとよさそうだと気づき曲想を捉えていきました。

『ふじ山』の一番の曲の山を見付けて歌おう

【見通し】

前時に音楽会での演奏や、小学生日本一の合唱を聴き、どちらも曲想に合った歌い方だったことを振り返りました。そして、本時の教材である『ふじ山』を聴き、どのような曲想だったかを思い出し、『ふじ山』の曲想に合った歌い方をするためには曲の山を見付けて、強弱を工夫して歌うとよさそうだと「富士山ボード」（発見した問題）に示し、本時の課題を設定したり、解決の見通しをもったりしました。



【行動】



グループに分かれて一番の曲の山を見付け、歌い方の工夫を考えていきました。その際にグループで工夫点を一枚のワークシートに書き込みながら、意見を出し合ったり、絞ったりしていきました。これまでの既習事項の「歌詞」と「旋律」から、曲想を捉える方法を組み合わせて見付けていきました。「考える、歌う、聴く」を繰り返しながら強弱の工夫について考えを深めていき、一番の曲の山に「山シール」を貼りました。



【振り返り】

分かったことやできたこととその理由について個人の振り返りカードに記入しました。また、自分では気づいていなかったことに気付けるようにグループで振り返る時間を設定し、協働のよさや他者への貢献を実感していきました。その後「富士山ボード」を使って、解決できた問題を整理したり、目標とを比べたりして「次は曲の山以外の歌い方を工夫しよう」という次の目標を見いだしたりしていきました。



成果と課題

○音楽会の歌や日本一の歌を聴いたことで曲想に合った歌い方が大切だという意識をもつことができた。録音機能を活用し、「考える、歌う、聴く」という循環が生まれ、曲想に合った歌い方を目指そうと試行錯誤する姿が見られた。

▲試行錯誤の時間が十分確保されていなかった。また、「曲の山」という言葉の理解が不十分だったため、見付ける際に迷う姿が見られた。子供たちの実態に合わせて、見付け方を全体で周知する時間を設ける必要があった。